

自己評価票

自己評価は全部で100項目あります。

これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。

項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目の や 等)から始めて下さい。

自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。

自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を实践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を实践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(1から 87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(88から 100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム 寿の家
(ユニット名)	1ユニット
所在地 (県・市町村名)	鹿児島県 熊毛郡 中種子町 牧川 1680 - 1
記入者名 (管理者)	徳永 郁子
記入日	平成 20 年 7 月 28 日

地域密着型サービス評価の自己評価票

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
1. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>		
	<p>認知症があっても、地域住民の一員として普通の家庭生活ができる、雰囲気・空間に気を付けながら擬似家庭の雰囲気づくりに職員一同日々取り組んでいる。利用者のケアについては、ゆっくり・いっしょに・楽しくをモットーに安心・安全な生活の実現を目指しています。</p>		
2	<p>理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>		
	<p>常に目に入ってくるよう目先の位置に理念を掲示し、心に言い聞かせ、スタッフとも声を掛け合うよう努めている。</p>		
3	<p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>		
	<p>周辺住民には高齢者が多く、交流頻度は低いですが、小学生の緊急時避難連絡先としての役割・行事への参加呼びかけに力をいれながら理念の理解が得られるよう取り組んでいる。</p>		
2. 地域との支えあい			
4	<p>隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>		
	<p>近くに田畑が多いため、米や野菜などの作物を戴いたりしており、集落への集まりにも参加しながら親睦を深めるとともに、気軽に立ち寄ってもらえるような関係を築くよう努めている。</p>		
5	<p>地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>		
	<p>当初は行事への参加に地域の方々も多かったが、高齢になり民生委員等の役の方々の参加にとどまり、グループホームの入所者が出掛けていくことも困難になってきている。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	行動のたび地域に呼びかけ、又、関連しているデイサービスを利用することで役立つ事がないかなどに取り組んでいる。常日頃から気軽に立ち話ができる関係を築きながら、健康状態の把握に努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	年1回の外部評価を通してスタッフ皆がまず自己評価をし、話し合う場を設け、内容を具体化し共有できるよう努めている。		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2～3ヶ月に1回は、開催するようにしているが、現実取り組めていない。		利用者のサービス向上にもつながるため進めないといけないが、まず、家族の方にその意義を理解してもらえないため、その方に力を入れる必要がある。
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	2ヶ月に1回は、なんらかの行事を行っているため、その都度招待状を出し、日々の生活・取り組みなど説明。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	パンフレットなどで示し、又、ホームヘルパー2級養成講座も行っていることから、話し合う場は、設けている。		
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	入所者の人格を尊重し、高齢者虐待防止関連法を学び虐待が見過ごされないよう防止に努めている。日頃よりやさしい言葉使いをするよう声かけあっている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4.理念を实践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約する前に体験したり、見学していただいたりして、利用者・家族の方に納得・理解していただいた上で契約する形式を踏襲するよう心掛けている。解約される場合も利用者の精神的な負担が軽微なものになるよう協議を重ね、慎重に対処している。</p>	
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>意見・苦情を自由に聞けるよう意見箱を設け、又、スタッフ自身も見学・面会にこられた際の対応教育に努めている。</p>	
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>家族が来苑された際、管理者だけでなく、キーパーソンの把握により、日々の状況を報告するよう努め、</p>	
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>面会等の来苑の際に必ず声をかけ、話せる雰囲気づくりに努めている。</p>	
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>月1回職員会議及びケース会議を設け、又、日々に対応に困ったことがあればその都度話せる雰囲気に努めている。</p>	
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>勤務表を作る際、1ヶ月先までの予定を聞き職員の希望がなるべく叶えられるよう配慮するとともに、緊急時には休暇をとっていても対応できるかどうかの確認まで予定表に書き込んでいる。</p>	
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>介護日誌や何でもノート等の活用を通じて利用者の特徴など直ぐ把握できるよう配慮しており、異動や離職による利用者へのダメージの軽減に努めているも、離職については、早めの報告が得られない場合もありスムーズにいかないケースも見られる。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>ホームヘルパー2級養成講座を年1～2回ほど実施しており、資格のないスタッフには、できるだけ受講してもらっている。内部、島内での研修等には、できるだけ参加してもらえよう工夫している。</p>	
20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>内部での交流はあるも、同業者との交流は無いに等しい。同じグループホームに声を掛け、地域の高齢者の情報交換・勉強会の機会を増やしながネットワークを充実させて、サービスの向上につなげていけるよう取り組んでいく。</p>	
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>行事を行った際、終わったあとごろうさん会を設け、食事をしながら日々の思いを聞いたり、又、入居者の水分補給後スタッフも休息をとりながらストレスの発散に努めている。</p>	
22	<p>向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>個々にあった介護の仕方を常に話し合い、又、スタッフの特技等に合わせ発揮出来る場を作り、各人の自信に繋げたり、役割の大切さ連携の重要性を常に意識するよう働きかけながら向上心の維持に努めている。</p>	
安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>キーパーソンや本人の病歴、生活歴など聞き、それを踏まえて介護に活かせるよう相談当初から聴く機会を多く取り、事情を受け止めるよう努めている。</p>	
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>まず現在困っている点、不安に思っていることを話せる雰囲気をつくり気軽に相談できて、秘密もまもられるという安心感を与える場となるよう努めている。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族の不安や必要としている支援が、利用者本人の希望と必ずしも一致するとは限らないので、双方の意見を十分聞き、入所にこだわらないで、信頼関係を構築できることを第一にした対応を心掛けている。他のサービスの利用も状況次第で説明している。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	まず家族や本人に見学してもらい、1日でも体験入所してもらったり、自宅で使い慣れた道具・家具・寝具など持込んで徐々に慣れるよう工夫している。頻繁に家族と連絡をとり当初の不安を取り除く努力を重ねている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	若い頃の生活状況、環境を会話の中で思い出し、共に喜んだり、学んだりしながら相互の対話を大切にしている。常に見守りながら安心感を与えるよう努めている。		
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	来苑された際には、本人を交えた会話を大切にして、日頃の様子などをさりげなく話し伝えるよう心掛けている。苑にすべてを任せきりにするのではなく、時々連絡をとりあったりしながら相互の協力のもとに支援していくのだという意識をもって頂けるよう心掛けている。		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	日々スタッフと共に生活していても、家族の方が来苑されると、日頃と異なった笑顔を見せて喜ばれるため、家族の方の来苑回数を増やす環境・空間づくり・対応に努めるよう心掛けている。		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入所したことで近所の人、知人等がとぎれることなく、気軽に訪ねて来てもらえるように努めている。		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	季節ごとの絵画や飾りなどを協力して作り上げたり、お習字など楽しんだりしてお互いの親睦感を深めていけるよう工夫に努めている。利用者同士が支えあいながら作る喜びを共有できる場所を常に確保している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	地域密着型により、より身近な方の利用になり近隣で会うことも多くなり、今以上に継続的な関わりが大切になってきている。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	集団生活にあっても一人一人のリズムを大切に、押し付けることなく、ゆっくりゆるやかな生活が送れるよう心掛けている。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	来苑される方々により、本人のこれまでの生活ぶりを聞いたり、話されたりする中で、支援につなげられることがらを参考にしながら、個々の笑顔につながる工夫に努めている。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	個々の生活リズムノートや日誌を参考に、能力・機能が低下しないよう出来ることを見出して実践しながら、自信につなげられるよう工夫している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人の記録担当者を決め、生活面・身体面を把握した上で介護計画に活かしている。		
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	管理者はモニタリングして新たな計画を作成、又、スタッフとの共有という所で担当者会議で、家族を含めた話し合いをもち、新たな計画作成に努めながらより質の高い介護につなげられるよう工夫を重ねている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護日誌、生活リズムノート、何でもノートなど個々人の日々の様子変化を把握し、意見を出し合って介護に活かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	グループホーム以外にデイサービス・ショートステイ、在宅など必要に応じた事業があり、本人や家族の多様なニーズに対応できる体制を確保しながらより柔軟な支援に結びつけている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	グループホームはもちろん、会社として行っている事業を理解してもらえるよう行政への参加、地域への呼びかけ、地域の催しへの参加などを通じて、交流を深めながら有機的な支援につながるよう努めている。		
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	現時点では、対象者がいないも必要に応じて提供していきたい。		入院するほどでもないが、医療が必要なときは、訪問看護の説明などをし資源活用できるよう助言・手助けをしていく。
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している			当グループホームは、介護度が重度化しており、長期的なケアマネジメントが必要であり、地域包括支援センターからの情報提供及び支援、協働などを通じて権利擁護の実現につなげていきたい。
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所により医院を変えるのではなく、継続し安心して医療が受けしてもらえるよう努めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	専門医の診断に基づいて、入居者のケアプランを作成し、日々の介護に活かしながら状況変化の報告に努めている。入所当初より改善することがほとんどで医師との連携・信頼構築に努めている。		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	事業所内に看護職員がおり、医師の指導のもと日常の健康管理や医療活用の支援に役立っている。近隣の看護婦との交流があり気軽に相談に乗ってもらっている。また、2級ヘルパー養成講座の講師も担当してもらっている。		
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	見舞い方々状況を聞いたり、状況によっては医師、看護婦を交えての話し合う場を設けてもらっている。洗濯物は苑の方で対応。		
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	契約の時点で、終末ケアについて説明。状況によっては、医師と家族との話し合いの場を設け医師の指導のもとに、関係者全員で方針を共有しながら、随時変化に対応していく連絡・支援体制を確立している。		
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	個々の症状・状況に合わせて、家族との連絡を密にしながら医師の診断のもと、きめ細かな対応を心掛けている。苑で対応できることをひごろより家族の方に説明している。		
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	対象者があれば、ダメージを最小限にするための情報提供・協力体制を確立するべく話し合う場を設ける努力をしていく。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報取り扱いをしていない</p>	<p>記録等については十分配慮し、プライバシーを損ねないよう気をつけるとともに、理解力に乏しい面があるも、尊重した対応に努めている。関係者以外への不用な情報の漏洩がないよう徹底して管理・運営していく。</p>	
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>解る力に合わせて、不快感を表したり、不機嫌になつたりしない程度に掃除や洗濯物たたみを手伝ってもらい生活感を感じてもらったり、好きな番組を聴きだして見てもらっている。</p>	
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>かなり重度化して来ており、自らの意思表示が少ないため、寝たきりにならないよう心掛けつつ個々の過ごし方を支援している。</p>	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>入所時にどのようにされていたか望みを聴き、その時々状況に合わせて支援している。理容については今、ボランティアが対応している。</p>	
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>馴染みのある郷土料理などで季節感を出せる工夫をし、食材の前処理など手伝ってもらっている。職員はすべて料理の準備、後片付けなどに携わっており、調理人と協力して食事を楽しく雰囲気づくりを心掛けている。</p>	
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>入所時にお酒・たばこ等好まれる方について禁止することなく、健康上の安全性について説明し、理解が得られた上で楽しんでもらうよう状況に応じた支援を心掛けている。おやつについては、市販のもの・手作りおやつ・飲み物も個々に好みを聴きだし対応している。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄パターンを把握し、その人にあった方法で日中は、トイレにて排泄。紙オムツは出来るだけ使用しない工夫と不潔にならないよう清拭等の活用を心掛けている。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	健康状態を把握した上で、毎日を基本に入浴の希望を聴き、夏場はゆっくり寝れるよう夕方シャワー浴をしている。		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	個々の生活パターンを理解しており、安心した休養・体位でリラックス出来るよう支援している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	気持ち、身体がのってくるゲームなどある程度把握しており、その日の状態をも勘案しながら出来ることをし、同じパターンにならないようメリハリをも考えて支援している。		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入所時にお金の管理について、又、不安定にならないかなどを聴いた上で、希望に応じて対応を考えている。今の所、お金の所持や使うことはしていない。		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	その日の希望には必ずしもそえないが、ドライブや散歩を心掛けている。普段は、居間よりすぐベランダに出られるので天気の良い日は、戸外で日光浴を楽しみながら対話を心掛けている。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	個々の健康状態を勘案し、住み慣れた所へのドライブや公園・花見と行事風に取り入れながら、外出の機会を設けている。また、年に1回お墓参りをする支援を行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話があったら電話に出てもらって話させたりしてきたが能力・機能面でも無理があり、手紙を渡してもほとんど理解できない為、スタッフの方で新聞作りや来苑時に近況を知らせたりといった支援で対応している。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	いつでも、誰でも、気軽に訪問できるよう玄関を開けっ放しにしていたり、田畑への行き帰りの人に声を掛けたりしている。直接苑と関係ない人でも立ち寄って作物をもらったり世間話ができるよう心掛けている。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ケア側に立った対応でなく、命の危険が及ばない限り拘束はさけ、常に話し合いながらケアに取り組んでいる。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	カギを掛けないと対応に困るといったレベルの対象者が今の所おられないが、そわそわと落ち着かない状態のときは、一緒に外に出たりしている。		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	個々に見守りをかかさず、行動パターンを把握しながら安全に配慮している。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	洗面台の石鹸は液体ですすぐ出ないような器に入れ、固形石鹸はネットに入れ、すぐ目に付く所に置かない。ゲーム・工作など終わったら直ぐ片付ける。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ヒヤリハットと題して、時々話し合ったり書き留めたりといった工夫と誤薬を防ぐために内服の包装袋や時間などの処方を解り易く掲示している。火災においては、年2回の防災訓練・避難訓練を実施していざというとき適切な行動・判断に結び付けられるよう心掛けている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	看護師に任せて、適切な判断・行動・処置を心掛けている。時間を見つけて指導・助言を貰いながら、応急処置や落ちついた連絡が出来るよう訓練している。		スタッフが変わるので、その都度初期対応や応急手当の対応が出来るよう定期的に訓練や指導を行っていく必要性がある。
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	非常時の連絡先・連絡手順など緊急時の連絡体制を掲示して慌てずに対処できるよう訓練している。		避難訓練の実施がなかなかできていないため、利用者を効率よく避難誘導する訓練の実施に取り組んでいきたい。
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	予測出来るリスクを早期に家族に説明し、理解をもとめて信頼関係ができるような対応を心掛けている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	基本チェック・問診をかかさず行いながら、スタッフは常に顔色・行動・言語に気を付け普段と異なる兆候を見逃さないよう心掛けている。変化に気づいたら情報を直ぐ共有し適切な対応が出来るようスタッフ同士の確認をかかさない。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋をスタッフの目に付く所に掲示し、適切な服薬支援に努めている。薬効および副作用についても理解を深めながら日々の対応に努めており、症状の変化を見逃さないよう日々確認しあっている。		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排泄パターンの把握および状態変化を見逃さないよう記録を怠らないようにしている。便秘予防を考慮に入れた食事の工夫(さつま芋など)。医師の指導や水分補給の工夫によりそれぞれにあった排泄の工夫をして行く。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	起床時及び毎食後に口腔ケアを実施する。まず、出来ることをして貰い、スタッフが必ず仕上げをする。ブラッシングや布、歯間ブラシの活用などケースバイケースで清潔な口腔状態の保持に努めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の入居者にあった、刻み・とろみを工夫し、見た目を考慮しながら食べやすいよう工夫している。水分についても、尿量などチェックしながら支援している。		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	感染症に関するマニュアルを参考にうがい、手洗い、空気の清浄、台所の洗浄、身体の清潔を習慣付けている。テレビや新聞等の報道による注意の呼びかけ等も取り入れながら注意を怠らないよう努めている。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	台所危惧、冷蔵庫などはその都度清掃し、近隣にお店がないため、4、5日の食材を買い込むため、傷みやすい食材から使用。作り置きはしない。消費期限の厳守などに努めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関には季節の花を活けたり、建物周囲にも花を植えたりするなどの工夫をしている。自然と解け合った風景を心がけて和める雰囲気づくりに努めている。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	絵画やレクリエーション等の写真・手作りの飾りなどを壁などに飾り、親しみの湧く空間づくりに努めている。苑での生活情景が容易にわかる写真で明るい雰囲気づくりを工夫している。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビの好きな入居者には、好みを把握し楽しく鑑賞してもらい、又、音楽をかけたり、デッキやソファで思い思いに過ごさせる工夫をしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者の使い慣れた家具や日用品・ホームで作った作品、ご家族の写真が飾られ、安心して居心地よく過ごせるよう配慮している。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	換気に努め、外気温と大きな差がないよう配慮し、空調設備をうまく活用し、利用者が心地良く過ごせるよう配慮している。急激な温度変化がないよう留意して利用者へのダメージの軽減に努めている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人一人の身体機能を活かし、手摺に掴まって移動したり、車椅子で移動したり出来るよう工夫されている。通路や出入り口が広く設計されており介護者がゆっくり丁寧に対応できるスペースを設けている。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	入居者の介護度が高く、活発な活動や自立は望めないが、声かけにより本人の意思を確認しながら対応するよう心掛けており、混乱の防止に役立てている。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	晴れた日は、庭やベランダにソファを出し、日光浴を楽しんでお茶を飲み、おやつを食べたりして楽しんで戴き、時には草むしりなどを手伝ってもらっている。		

. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

職員は、日常生活全般を通じてケアの理念である**ゆっくり・いっしょに・楽しく**をモットーに、利用者の介護・介助にあたっています。しかしながら、利用者である対象者の高齢化と認知症の重度化によってお互いのコミュニケーションや理解がうまくかみ合わない所が多いも日々のケアを通じて信頼感と愛着心の度合が増すよう情報を共有しながら家族的な雰囲気大切に頑張っています。